



ゆめ は え
夢南風

令和8年2月26日発行
鹿児島市立河頭中学校
鹿児島市犬迫町1168
Tel 099-238-2663

生徒数 合計86名
1年31名, 2年25名, 3年30名

「有終の美を飾る」

校長 淵脇 広智

「有終の美を飾る」とは「最後までしっかりやり切って、良い形で終わる」という意味です。「有終」には「最後までやり遂げる」という意味があり、「美」と合わせることで、「気持ちよく、立派に終わる」という表現になります。「最後を美しく飾る」「最良の形で終わる」とも言い換えられますが、この時期にこの表現がピッタリと当てはまります。



ミラノコルティナ2026冬季オリンピックで活躍した世界中の選手たちの姿は、メダルを取ったかどうかに関係なく「有終の美を飾っていた」と言えると思います。なぜなら、選手の誰もが最後まであきらめず、自分の力を全部出し切っていたからです。その姿を見て、多くの人が感動したことでしょう。

さて、3学期も残り少なくなりました。みなさんにとって「有終の美を飾る」とは、どんなことだと思えますか。私は、次の3つが大切だと考えています。

まず1つ目は、「学習の締めくくりをする」ことです。この1年間で学んだことをしっかり理解し、次の学年へ進級したり、卒業したりするための準備をしてほしいと思います。3年生はいよいよ公立高校入試が始まります。1・2年生は学年末テストが終わると気がゆるみがちですが、卒業式・修了式までは、今年の学習のまとめをしっかりと続けてください。

2つ目は、「自分自身をふり返る」ことです。この1年間で自分がどう成長したのか、ここで少し立ち止まって考えてみましょう。時間を守れたか、整理整頓ができたか、あいさつを大切にできたか。クラスの一員として、友達に思いやりをもって関わることができたか。こういったことをふり返ることで、自分の成長が見えてきます。

そして3つ目は、「使った場所をきれいにする」ことです。「立つ鳥跡を濁さず」ということわざがありますが、「最後を気持ちよく終わる」という意味でもあります。1年間すごした教室や校舎、自分の机や椅子、ロッカーなどを、感謝の気持ちを込めてきれいにしてほしいと思います。河頭中は79年の歴史があります。校舎は古くても、みなさんの力でいつも気持ちのよいすしやすい学校にしていきたいと思います。

3学期も残りわずか、生徒一人一人が、それぞれに「有終の美」を飾ってほしいと思います。

保護者・地域のみなさまにおかれましては、これまで生徒の成長を見守り、学校を支え続けていただき心から感謝申し上げます。

3日(火) 生徒校朝会
4日(水) 公立高校入試～5日(木)
6日(金) 3年卒業式練習① 球技大会②③④



の主な行事

10日(火) 1・2年会場準備① 同窓会入会式②
卒業式予行③④ 1・2年卒業式準備⑤⑥
11日(水) 第78回卒業式 欠時⑤⑥
12日(木) 公立高校合格者発表
14日(土) 土曜授業
20日(金) 春分の日
24日(火) 小学校卒業式
25日(水) 修了式・離任式① 大掃除② 欠時④⑤⑥

第4回学校運営協議会

2月25日(水)今年度最後の第4回学校運営協議会を開催しました。令和7年度の実態調査を踏まえて「学校が楽しい」と感じる生徒が増えていることが、ウェルビーイング(幸福感)の視点に立った学校経営や河頭中特有の行事等の成果の1つとして挙げられました。また、委員の皆様からは、タブレットの家庭での使い方や郷土伝統芸能発表会など日頃の取組に対する様々な御意見や質問がありました。委員の皆様からそれぞれ助言いただいたことを今後の教育活動に生かしていきたいと思っております。9名の運営協議会委員の皆様、1年間本当にありがとうございました。



心と体を育む中学校給食 ～学校調理員 岩佐睦美さん～

中学生は一生のうちで最も成長が著しい時期であるため、小学生より多くのエネルギーや栄養が必要です。

エネルギー量は、小学生(中学年)650キロカロリーに比べ、中学生は、約830キロカロリーが必要です。

食塩相当量は小学生2g未満、中学生は2.5g未満とわずかに許容幅が異なります。

栄養素では、カルシウムや鉄分、タンパク質などの基準も中学生の方が高く設定されています。

鹿児島県は、農業・水産業が盛んなため、小学生・中学生ともに、地元の食材(黒豚・ブリ・桜島大根など)や郷土料理を取り入れた「食育」に力を入れている点は共通しています。

学校では給食ニュースを掲示して食育まんのポスター等によって、生徒たちが、学校給食について楽しく学ぶ機会を作っています。

中学校の給食は、生徒たちの健やかな成長を支える強力なパートナーでもあります。おいしい栄養満点な食事を通じて、未来に生き抜く力を育んでほしいと思っております。【鹿児島県PTA新聞3月号より抜粋】